

平成25年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年6月1日

上場取引所 大

上場会社名 ピープル株式会社

コード番号 7865 URL <http://people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 千鶴子

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 平成24年6月4日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成25年1月期第1四半期の業績(平成24年1月21日～平成24年4月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第1四半期	632	1.9	17	△68.1	18	△66.0	10	△66.0
24年1月期第1四半期	620	△10.5	54	△24.2	54	△36.2	30	△47.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年1月期第1四半期	2.37	—
24年1月期第1四半期	6.99	6.98

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年1月期第1四半期	2,082	1,733	83.2	396.12
24年1月期	2,335	1,891	81.0	432.29

(参考) 自己資本 25年1月期第1四半期 1,733百万円 24年1月期 1,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年1月期	—	0.00	—	39.00	39.00
25年1月期	—	—	—	—	—
25年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年1月期の配当予想につきまして、第2四半期末配当実施の有無につきましては7月中旬に、期末配当予想につきましては通期業績見通しと連動しますため、第3四半期終了し年末商戦を見極めた後に発表させていただきます。

3. 平成25年1月期の業績予想(平成24年1月21日～平成25年1月20日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,157	△6.5	△29	—	△28	—	△16	—	△3.71
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社の通期の業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。このような玩具市場の特性に鑑み、本来第2四半期累計期間とともに通期の業績予想を掲げるべきところ、直近で見通せる第2四半期累計期間の予想のみを掲げさせていただきます。

4. その他

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(詳細は、【添付資料】P.4「サマリー情報(その他)に関する事項」をご参照下さい。)

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年1月期1Q	4,437,500 株	24年1月期	4,437,500 株
25年1月期1Q	62,193 株	24年1月期	62,193 株
25年1月期1Q	4,375,307 株	24年1月期1Q	4,357,307 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

5. 平成25年1月期第2四半期会計期間(平成24年4月21日～平成24年7月20日)および
平成25年1月期第2四半期累計期間(平成24年1月21日～平成24年7月20日)の業績予想

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		第2四半期 純利益	1株当たり四 半期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円 %	円 銭
25年1月期第2四半期	525	(△15.0)	△ 46	(-)	△ 46	(-)	△27 (-)	△6.08
24年1月期第2四半期	618	(6.4)	35	(60.5)	35	(114.3)	20 (129.7)	4.61
25年1月期第2四半期累計	1,157	(△6.5)	△ 29	(-)	△ 28	(-)	△16 (-)	△3.71
24年1月期第2四半期累計	1,237	(△2.8)	89	(△4.7)	88	(△12.1)	51 (△24.5)	11.59

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の概要	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	7
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
【第1四半期累計期間】	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
【第1四半期累計期間】	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(7) 重要な後発事象	8
5. 補足情報	8
(1) カテゴリー別販売の状況	8
【第1四半期累計期間売上高】	8
【新発売商品】	8

【添付資料】

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

第1四半期累計期間

(平成24年1月21日～平成24年4月20日)

	金額	対前年同期比
売上高	632百万円	1.9% 増
営業利益	17百万円	68.1% 減
経常利益	18百万円	66.0% 減
第1四半期純利益	10百万円	66.0% 減

第36期第1四半期は、前年から続く消費低迷から玩具・自転車市場共に年明けの市場在庫整理で時間を要し、重いスタートとなりました。玩具については流通段階の仕入れが開始したのは当四半期後半からで、ゴールデンウィーク商戦直前の駆け込み受注等で出荷が進み、当第1四半期の売上高は6億32百万円となり、震災で一昨年比1割下回った前年実績に対比し1.9%増と僅かに上回りました。

市場の冷え込みが続く玩具部門の中でも、女兒玩具のお人形シリーズは過剰な市場在庫も無く、堅調に推移して当四半期の売上を支えました。当四半期では4年以上の長期定番人形「よちよちぼぼちゃん」や「女の子ぼぼちゃん」のファッションを新たに2ヶ月連続新発売し、2歳女兒の2012年ファンを新たに動員し始めています。しかし、女兒玩具でもクッキングやアクセサリ作り等の女兒ホビー玩具からは、雑貨・アパレル等の商品に消費が移行している様子も見られ、“玩具離れ”が業界の深刻な課題となっています。多種の女兒ホビー滞留在庫の中で当社製品のエコ・ホビーシリーズ等も少なからず影響を受けているようです。

乳児・知育カテゴリーは、ベビーシリーズの新製品好回転やメディア露出等で良好ですが、タイの洪水後供給が途絶えている商品を含んだカテゴリー総合では前年実績に届いておりません。当四半期4月度では、累積240万個を突破したロングセラー「やりたい放題オリジナル版」の金型消耗を機に、長期欠品期間を経て「やりたい放題セレクト(税込3,654円)」を新発売しました。26年間の定番品だけに流通人気をあまり初回出荷されましたが、同時に、大手量販店数社の集客キャンペーンアイテムで「やりたい放題ビッグ版」が値引販売され、「やりたい放題セレクト」の販売価格とぶつかり影響を受ける等、当カテゴリーの安定商材群では流通各社の消費喚起策のために苦戦を強いられています。

遊具・乗り物カテゴリーでは、新製品「止めてくれるな！ボクの挑戦」(オープン価格)というボルダリングを取り入れたユニークなリビング遊具を発売し、低迷する屋内遊具ジャンルに新しい風を吹き込む挑戦をしております。又、自転車においては、小学校1年生から6年生まで買い替え要らず「1-6自転車」(オープン価格)や、いきなり自転車に専用ショッピングバッグを付けた「いきなり自転車ショッピング」(税込24,990円)の新製品発売等で、当四半期カテゴリー売上高は前年を微量に越えています。しかし当期に入り、自転車市場全般、大人車の著しい販売鈍化傾向に伴ない、幼児車も天候不順が重なり下降トレンドからの回復が見えていない状況が続いています。

消費喚起策には玩具同様、販売店各社懸命となり、長期定番の安定商材を値引き対象とする等、「いきなり自転車かじ取り式」(税込23,940円)の安売りが新製品価格とぶつかり影響を受けています。

タイの洪水後中断した米国向け製造は、タイ国内の助かった金型で徐々に出荷を重ね、輸出版売は少しずつ回復し始めておりますが、製造キャパシティを補い拡大するために新規金型投資に踏み切った中国での製造供給が本格化するのには次期第2四半期以降となります。

上述のように、売上の伸び上がりが不足しほぼ前年並みに留まり、且つ、当期の仕入れ商品は主に中国製造コストの上昇により前期35期中盤から今年度にかけて改定された仕入れ原価のため、当四半期の売上総利益は、値上げ受け入れ前の前年同四半期に比べ減少しています。又、震災で中断され広告費が削減された前年同四半期に対し、当四半期は増額し平準化している為、原価アップによる減益と重なり営業利益は17百万円、前年同四半期対比68.1%減となり、これに伴ない経常利益は18百万円、前年同四半期対比66.0%減となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における資産合計は、20億82百万円となりました。前事業年度末から2億53百万円の減少となりました。

資産の部において、主に配当金支払による現金及び預金の減少等により、流動資産は前事業年度末から2億64百万円減少し、19億7百万円となりました。固定資産は金型等の有形固定資産の取得により、前事業年度から11百万円増加の1億75百万円となりました。

負債合計では、前事業年度末との比較で95百万円減少し、3億49百万円となりました。これは主に前期末の支払手形及び買掛金等の債務の決済が当第1四半期に実行されたこと、また、未払法人税等の減少によるものです。

純資産は四半期純利益の計上および利益剰余金の配当により、前事業年度末より1億58百万円減少の17億33百万円、自己資本比率は83.2%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物は、期首より3億68百万円減少し（前第1四半期累計期間比較では89百万円の減少）12億48百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の増加や仕入債務の減少、法人税等の支払により2億1百万円の支出（前年同期間比較では7百万円の支出の減少）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、金型等固定資産の取得による支出により24百万円の支出（前年同期間比較では10百万円の支出の増加）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金支払により1億42百万円の支出（前年同期間比較では37百万円の支出の減少）となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

第1四半期実績はゴールデンウィークの駆け込み受注で僅かでも前年に追いつきましたが、ゴールデンウィーク商戦を挟み既存品のトレンドは下降を示す傾向が強く、消費低迷からの回復が見込めない状況が続いております。震災後の復活反動で売上が伸び上がった前年第2四半期に対し当36期第2四半期は同期間対比15%減まで下ぶれ要因が見込まれます。従いまして当第2四半期累計期間売上高は6ポイント強前年同期間実績を下回る見通しです。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① たな卸資産の評価方法

当社では実地棚卸を第2四半期末、期末で行っており、第1四半期会計期間末の棚卸高算出に関しては実地棚卸を省略し、前事業年度の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。また、販売不振が予想される不動産等の評価の洗い直しを目的とするたな卸資産の簿価切り下げにつきましては、収益性の低下が明らかなもののみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法をとっています。なお、当期第1四半期ではその対象となるたな卸資産はありません。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっており、従来の四半期における算出方法から大きな変更はありません。

③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関し、四半期においては加算減算項目や税額控除項目の内、重要なものに限定し算出しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に、経営環境等の著しい変化、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前事業年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニング(将来の法人税等の発生について予測し計画すること)を利用する方法によっております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期会計期間の期首以降に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しています。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年1月20日)	当第1四半期会計期間 (平成24年4月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,617,474	1,248,897
受取手形及び売掛金	269,247	383,869
商品	261,043	261,421
原材料	6,158	6,104
その他	17,462	7,365
貸倒引当金	△512	△743
流動資産合計	2,170,873	1,906,912
固定資産		
有形固定資産	68,556	76,682
無形固定資産	2,571	2,649
投資その他の資産		
投資有価証券	28	28
その他	93,004	95,711
投資その他の資産合計	93,032	95,739
固定資産合計	164,159	175,069
資産合計	2,335,032	2,081,982
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	224,038	145,443
未払法人税等	90,964	801
その他	78,609	152,606
流動負債合計	393,611	298,851
固定負債		
長期末払金	50,000	50,000
固定負債合計	50,000	50,000
負債合計	443,611	348,851
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,520,764	1,360,477
自己株式	△33,235	△33,235
株主資本合計	1,889,035	1,728,747
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,387	4,384
評価・換算差額等合計	2,387	4,384
純資産合計	1,891,421	1,733,131
負債純資産合計	2,335,032	2,081,982

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年1月21日 至平成24年4月20日)
売上高	619,557	631,518
売上原価	298,251	337,106
売上総利益	321,306	294,412
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	82,536	88,977
販売促進費	11,560	10,068
運賃	38,498	40,134
役員報酬	15,061	15,061
給料及び手当	51,257	28,064
支払手数料	15,605	15,223
研究開発費	16,055	48,468
その他	36,698	31,160
販売費及び一般管理費合計	267,269	277,155
営業利益	54,037	17,257
営業外収益		
為替差益	—	727
その他	593	209
営業外収益合計	593	936
営業外費用		
為替差損	1,075	—
その他	9	—
営業外費用合計	1,084	—
経常利益	53,546	18,193
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,842	—
固定資産除却損	—	6
特別損失合計	1,842	6
税引前四半期純利益	51,704	18,187
法人税、住民税及び事業税	8,269	139
法人税等調整額	12,994	7,699
法人税等合計	21,263	7,838
四半期純利益	30,441	10,350

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年1月21日 至平成24年4月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	51,704	18,187
減価償却費	7,834	13,205
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,842	—
売上債権の増減額(△は増加)	△92,156	△114,622
たな卸資産の増減額(△は増加)	△75,238	△323
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,524	△78,595
その他	37,834	49,397
小計	△74,704	△112,751
利息及び配当金の受取額	2	3
法人税等の支払額	△133,722	△88,685
営業活動によるキャッシュ・フロー	△208,424	△201,433
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,982	△24,087
無形固定資産の取得による支出	—	△376
投資事業組合からの分配による収入	544	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,437	△24,462
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△179,799	△142,661
その他	△144	167
財務活動によるキャッシュ・フロー	△179,943	△142,494
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△402,805	△368,409
現金及び現金同等物の期首残高	1,740,142	1,616,748
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,337,337	1,248,339

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. 補足情報

(1) カテゴリー別販売の状況

当第1四半期会計期間の販売の状況について、当社は単一セグメントとしているため、カテゴリー別に示すと以下の通りです。

① 第1四半期会計期間売上高 (単位 千円)

カテゴリー名	前第1四半期累計期間 (自平成23年1月21日 至平成23年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年1月21日 至平成24年4月20日)	前年同期比 (%)
乳児・知育玩具	225,955	205,399	90.9
女兒玩具	142,105	141,310	99.4
遊具・乗り物	187,351	196,602	104.9
その他	64,147	88,205	137.5
合計	619,557	631,518	101.9

② 新発売商品

カテゴリー名	当第1四半期 新発売商品	
	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	「いたずら1歳やりたい放題セレクト」	¥3,654
	「うちの赤ちゃん世界一 全身の知育メリー&ジム」	¥10,290
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ「集中フォン」	¥819
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ「ハイハイトレーニング・ペットボトル」	¥714
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ「お目めの追いかっこガラガラ」	¥525
	ノンキャラ良品ベビーシリーズ「手伸ばしシアター」	¥714
女兒玩具	お人形「よちよちぼぼちゃん お食事スタイつき」	¥4,389
	お人形「2歳のぼぼちゃん」	¥4,599
	着せかえ「ティアードワンピース」	¥1,470
	着せかえ「うさぎのキュロット」	¥1,470
	着せかえ「お花のサロペット」	¥1,470
	「おしゃべりハサミ」	¥1,554
	「受付つき病院に変身救急車」	¥4,494
	「お買い物ベビーカー」	¥4,179
	「おしゃべりベッド」	¥3,444
	「キャップデコ〜ル」	¥2,604
遊具・乗り物	「いちろく自転車」	オープン価格
	「いきなり自転車ショッピング」かじとり式	¥24,990
	「ふんばり脚の知恵つきチェア」(レッド、ライムグリーン)	オープン価格
	「止めてくれるな ぼくの挑戦」	オープン価格